
『小さな殺人者』【掌編・サスペンス】

山田文公社

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

『小さな殺人者』【掌編・サスペンス】

【NZコード】

N7468Q

【作者名】

山田文公社

【あらすじ】

手野町で起きた連続殺人事件。

『小さな殺人者』作・山田文公社

手野町てのまちは都心から少し離れた閑静なベットタウンで、多くの住民が暮らしていた。これと言った特徴がない町だったが、事件が起きてから一時賑やかな町となつた。それは深夜1時、辺りが静まりかえるなか、破裂音が響いたのが始まりだつた。爆竹が爆ぜるような乾いた音が二度、静まりかえる町中に響いた。人通りの無い都心から離れたベットタウンに響いた音は近隣の住民は耳にしたが、それが何かなど知ることなく、多くが聞きながらも、誰もが確認することなく眠りについていた。

薄暗い路地に、頼りない街頭むらなか よじとがともるなか腹部を押された男きしま たくろうが立つていた。男の名は岸間琢郎きしま たくろう、突然起きた出来事を理解出来ず、猛烈な灼熱感を伴う痛みと全身の虚脱感に襲われながら、道をふらふらと歩いた。やがて激しい悪寒が全身を襲い、全身の力が抜け落ちて岸間は倒れた。

新聞配達員の村中義人むらなか よしとが配達途中に道の脇にスーザ姿で倒れる岸間を発見した。岸間は腹部から出血して死んでいた。村中はすぐには警察に通報し、事件が発覚した。

警察は岸間が拳銃で腹部を二発撃たれて死んでいることから、すぐに周囲5キロに検問を敷き近隣住民への聞き込みを開始した。隣住民はテレビのニュースで事件が起きたことを知ることとなつた。

『手野町銃撃事件』は閑静な町を脅かす事件となつた。連日警察とマスコミが近隣住人に聞き込みをする姿がどこでも見かけられた。深夜にごく普通のサラリーマンが銃殺されたのだ。

岸間琢郎は都心の商社に勤めるごく普通のサラリーマンであつた。自身で交際はなく、交友関係にもおかしな点もなく、勤務態度も真面目であり、岸間の住むマンション住民とのトラブルも無かつた。

殺される理由などいくら捜査しても見あたらなかつた。殺害された際の着衣の乱れもなく、所持品が物色された形跡すらなかつた。怨恨でも物取りの犯行でもなく、ただ通り魔的に殺害されたのだ。マスコミも岸間の周辺をいろいろと聞き込んで見たが、これと言つた点はみあたらず、どちらかと言えば人の良い人物であつたこと以外の何も特筆できるエピソードはなかつた。

つまり岸間は深夜に通り魔的に拳銃で射殺されたことになる。その事実が手野町の住人を震撼させた。そして警察は有力な容疑者を見つけることが出来ずに時間だけが経過していつた。

事件から3ヶ月が経過し、記憶が薄れしていくなか再び事件は起つた。早朝の5時に新聞配達員の中村義人なかむら よしとが遺体で発見はされた。最初の事件と同じく拳銃で撃たれて殺されていた。胸部と腹部の2発に銃弾があり、致命傷は心臓への銃撃であつた。

マスコミは犯人の目星をつけられずにいる警察を非難し始めた。警察は様々な部署の警官を動員して事件の聞き込みと調査をおこない、ようやく一人の男に目星をつけた。

個人輸入代理店を営む黒川良くろかわ りょうを最重要参考人として連行したのだ。家宅捜査の結果、黒川の家からは複数のモデルガンが見つかり、違法な改造をしたモデルガンからは硝煙反応が見つかつたために、黒川は銃刀法（銃砲刀剣類所持等取締）法違反で立件された。

黒川逮捕から送検スピード裁判で有罪が確定した。しかし黒川は殺人については無罪を訴えたために裁判は長引いた。誰もが事件は終結したと考えていたのだが、しかし再度恐るべき事件は起きた。

今村一家が家族全員が頭部や胸部を銃で撃たれて死亡しているのが発見されたのだ。係争中であつた黒川はこの事件で殺人罪での立件が難しくなり銃砲刀法違反のみでの立件となり有罪が確定した。

マスコミも警察も大挙して押し寄せた。平穏で静かな手野町は通りに人が多く溢れ、昼夜問わずにテレビで連日放送された。しかし以前と同じくマスコミや警察が多くいる間は犯人も迂闊な行動はない、そういつた安心感があつた。

しかしそれは脆くも崩れた。マスコミのテレビクルースタッフや警官が襲撃され頭部に銃弾をうけて殺害された。

手野町のみならず、日本中が震撼した。『手野町銃撃事件』から『手野町無差別殺人』へと代わり本庁から多くの警官が導入され大がかりな捜査が始まった。それに伴いマスコミは移り住み放送し始めるなか、手野町住人の多く安全で静かな場所へと移り始めた。

しかし警察の懸命な捜査にもかかわらず犯人の目星すらつけられずにいた。

事件の手がかりの少ないなか、マスコミも警察も諦めのムードのなかで、一人の新聞記者が犯人と接触したことを告げた手記を公開した。マスコミならずこの手記は、いろいろなメディアで取り上げられた。公開した新聞記者の國中智^{くになか さとし}が重要参考人で警察に拘留された。

手記の内容は犯人の遭遇から始まり、犯行の動機や経緯が書かれていた。未成熟な青年像が一人歩きし始めた。

近隣住民も存在しない青年の目撃や勝手な憶測を広めた。犯人を知る国中には多くのマスコミが取材で押しかけたが拘留中で取材はされず、ただ何故か黙秘を続けることだけがテレビで報道されていた。

誰もいない居間のテーブルに一人座る少年がいた。少年は国中で書いた本を閉じてそつとテーブルに置いた。

「ベストセラーの代償か……」

少年はそう呟きオレンジジュースの注がれたコップを手にしてから口に含んだ。テーブルの脇には異質な自動式拳銃や回転式拳銃が置かれていた。

この少年こそが犯人だった。しかし少年は国中に接触もしていなければ、一言も語ってはいない。国中が黙秘を続ける理由がそれに関係しているのは確かでだった。

しんと静まりかえつた一階建ての一軒家には少年一人だけだった。家族は居るが少年は一人この家に暮らしていた。少年は時計を見る

と居間の椅子に置かれたランドセルを背負い玄関へと向かう。

「いってきます……」

誰もいない玄関にそう咳き少年は学校へと向かう。

小さな殺人者は何喰わぬ顔で学校へと向かう。

見えない犯人におびえる教師と子供達は知らない。同じ教室内に

その恐るべき犯人が居ることを……。

真相は闇に潜んだままに、日常は過ぎていく。

(後書き)

お読み頂もありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7468q/>

『小さな殺人者』【掌編・サスペンス】

2011年2月8日02時25分発行